

全世界が注目する持続可能な経済とは？

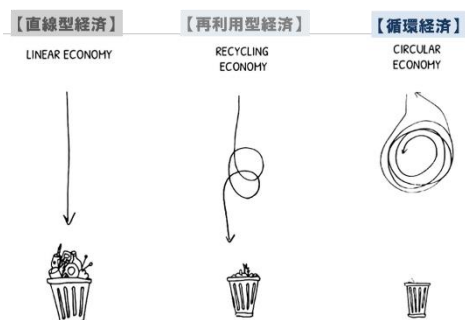
リサーチの背景

昨今、「サーキュラー・エコノミー(以下、CEという)」という名のビジネスモデルが注目を集めている。欧州を中心に政府・企業においてこの実践が進められ、日本でも実装の検討がなされている。本稿では、CEの意味するところと具体例を見ながら、それがもたらしうる便益について考察する。

作成者: R. A.

レポートに関する
お問い合わせ:
03-5542-5300
info@sfinder.com

資源利用における経済の形態



(出典: Circular Flanders, "Plan C"に著者加筆)

循環型経済 = 利益を生むモデル

CEは「循環経済」と訳される。その名の通り、製品・資源を最大限に活用し、その価値を保持したまま永続的に再生・再利用し続けるビジネスモデルを意味する。現在の大量生産・大量消費型のビジネス形態を継続した場合、2030年には世界で約80億トン分の天然資源が不足し、4.5兆ドル(約500億円)の経済損失を被るといわれている(*)。こうした背景から、従来の直線型経済——「作って、売って、廃棄する」モデルから、循環型経済への移行が急務となっている。 * 出典: アクセンチュア

行政、民間、そして消費者へ

政府や企業はすでに動きは始めている。2015年には欧州委員会でCEに関する政策が採択され、日本でも経済産業省が主導して実装が検討されている。

企業の取り組みとしては、蘭・フィリップスの「光の販売」が好例だろう。電球という寿命があるモノの販売から、光を提供するサービスの販売という発想の転換のもと、製品廃棄を最低限に抑えるモデルを提供している(左図の「サービスとしての製品」に該当)。同社をはじめBtoCビジネスを展開する企業の活動は、新しい経済への一般消費者の参加も促す。

CEの5つのビジネスモデル

- 再生型サプライ
- 回収とリサイクル
- 製品寿命の延長
- シェアリング・プラットフォーム
- サービスとしての製品 (Product as a Service)

(出典: アクセンチュア)

地球環境と経済の両者を持続可能に

CEへの世界的な注目は日々高まっており、それに呼応して政策や企業の取組みが加速している。この新しいビジネスモデルは、経済成長と環境・社会課題を同時に解決する可能性をもつ。「持続不可能」な地球環境というネガティブな事実を背景としつつも、一方でビジネスモデルの移行による莫大な経済効果や効率的な資源循環を考慮すれば、それが実現しうる未来は明るいといえるだろう。とはいえ、政策や企業活動の範囲に留まれば、十分なインパクトは得られない。地域のコミュニティや個人も参加できる土壌が整えば、CEが従来の直線型経済に取って代わる日もそう遠くはないかもしれない。

世界全体の資源量傾向

グローバルでは、人口は増加傾向にある。一方で、資源は有限であることに変わりはない。資源のメガトレンドとして、人口増加に伴い一人当たりの農地・石油・水資源の可用性(使用可能であること)は年々減少していくことが予想される。

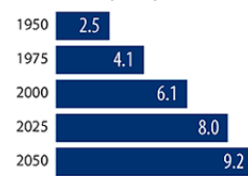
CEが新しいビジネスモデルとして希求される背景には、こうした世界全体の資源枯渇傾向があるのだ。

資源のメガトレンド

世界の食料供給と可用性

人口増加、利用可能な農地の広さ

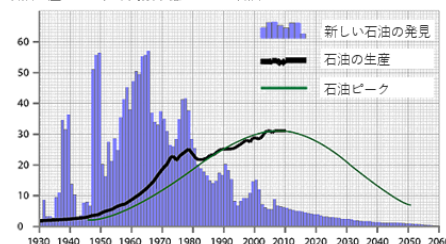
世界人口(10億人)



一人あたりの農地(ヘクタール)

世界の石油供給と可用性

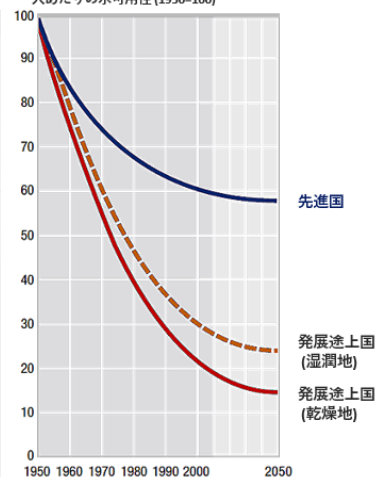
石油生産による、年間数十倍バレルの石油



世界の水供給と可用性

国グループ別、水の利用可能性の増減率

一人あたりの水可用性(1950=100)



Sources: Food and Agriculture Organization (FAO), World Resources Institute (WRI), Association for the Study of Peak Oil and Gas (ASPO).

(出典: Megatrends Watch, "Resources Megatrends"に筆者加筆)

ベルギー・オランダの取り組み

ベルギーとオランダでは、市民の暮らしにおいて、すでにCEの実践が行われている。例えばベルギーでは、調理くずのたい肥化などで「0 waste(ごみを出さないこと)」を目指すレストランや、「Bulk ショップ」という包装なしの量り売り食料品店が市民に人気だ。オランダでは、井戸水と太陽光エネルギーを活用した住宅が安価で提供されている。また、週末に開催されていたエコマーケットも盛況であった。

Owaste
レストランBulk
ショップ井戸水利用
・
太陽光発電
ハウス町の
サステナ
ビリティ
イベント

(写真出典: 2019年10月 筆者撮影)

参照・引用資料

- アクセンチュア (<https://www.accenture.com/jp-ja/insight-creating-advantage-circular-economy>)
- Ellen Macarthur Foundation, "Selling light as a service" (<https://www.ellenmacarthurfoundation.org/case-studies/selling-light-as-a-service>)
- Europe Comission, "Closing the loop" (https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/IP_15_6203)
- Circular Franders, "Plan C" (<https://vlaanderen-circulair.be/en/about-us>)
- Megatrends Watch, "Resources Megatrends" (<http://www.megatrendswatch.com/resources-megatrends.html>)

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。

本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。

また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。